

教育用パンフレットに関する意見照会の回答

子供向け	大人向け
	<p>・中面上部のイラストで、正面衝突の例は不要かと考えます。事故類型として多くない(表紙のデータで「その他」に含まれてしまうほど少ない)ことと、ユーザは正面衝突のほうがショッキングに感じてそちらばかりを読むため、最も注目させたい出会い頭事故の情報が薄まります。自動車側から「危ない」と感じるからこう書きたいのかもしれませんが、逆にドライバーに「危ない」と感じる状況なので正面衝突のリスクは低いのです。その分紙面スペースが寂しい場合は、左側通行のほうが出会い頭事故にあうリスクが小さいデータを示してはどうでしょうか。例えば、金子ら(2009) 自転車事故発生状況の分析, 土木技術資料, 51(4), 10-13. の図8などをベースに(もっと適したデータがあるかもしれませんが)</p> <p>・中面中央下部の「ヘルメット着用による致死率の低減」のグラフは、「死亡率は約3倍」と危険(非着用)に着目させるのではなく、ヘルメット着用によって「死亡率が約3分の1」のように、着用の効果に着目させるようにしましょう。また、横軸に「致死率」という軸名と単位を書きましょう(さらにいうとこの「致死率」が何なのかの説明も必要かもしれません)。</p> <p>・中面下部左側の写真とキャッチは、恐怖をあおるだけで効果が見込めません。むしろ、左側通行の場合と、右側通行の場合の、交差する車からの見え方(あるいは反対に自転車からの交差車両の見え方)の比較などにしてはどうでしょうか。または、現在のテイストを活かすとしたら、出会い頭衝突によって車両と路面に頭部を打つことで死亡・重傷化することを伝えてはどうでしょうか? いずれにせよ相手が大人ですから、感情的に怖がらせるのではなく、論理的に考えていただくことと、客観的な情報・視点でリスクに気づいていただくほうが行動変容には効果的です。</p> <p>・中面上部右側の「信号無視(一時停止無視)」は、「一時不停止」と「信号無視」は同列扱いとして、かつ一時不停止を先にして「一時不停止・信号無視」としてはどうでしょう。信号無視よりも一時不停止が断然多いからです。</p> <p>・裏表紙「2021年10月1日施行」部分の2項目について、「大人も子供も乗車用ヘルメットを着用」および「自転車損害賠償責任保険等への加入」の前に、それぞれの目的を書いたほうが良いでしょう。例えばヘルメットについては「死亡・重傷化を大幅に減らすために」、保険については「もしもの時に被害者を守るために」のように(あくまで例えばです)。「義務」については「理由・目的」を明示しないと、一般ユーザにとっては反感を招く(結果的に行動変容につながらない)でしょう。</p>
<p>①中面では「まちがいを覚えて」となっているが、教育の本来の趣旨とは、逆である。自転車の「正しい乗り方をおぼえて」とするべきだ。「まちがい」という言葉と「まちがいそのもの」を印象づけるのは、本末転倒であると考えられる。特に、幼児から低学年まで、同じ刷り物で検討されているのでなおさらである。発達段階上からの学習効果から考えて、幼児から低学年では特に、まずは、正しいお手本を明確な像として学ばせる必要がある。</p> <p>②中面のクイズの答えが、誤解を招くようなデザインとなっている。例えば、「ヘルメットをかぶりましょう」の答えのすぐそばに、大きな×がある。視覚的に、「ヘルメットをかぶる ×」の印象を受ける。信号、左側通行の部分でも同じ。先述のように、幼児から低学年児童の発達段階上での特性を考えた上で、正しいお手本を印象付けるべきだ。</p> <p>③上記の①と②の理由から、「まちがい×」の説明ではなく、「正しい乗り方○」の説明とすべきである。</p>	<p>①紙面デザインが、クイズに見えない。単なるデータの羅列の印象を受ける。</p> <p>②クイズ上部の親子の写真は、意味を成さない。また、子ども向けの刷り物としての印象を与えるような写真となっている。</p> <p>③クイズ含む全体において、色を多用しすぎており、結果、伝えたい要点が曖昧である。</p> <p>④表紙では、このクイズでデータを多用し、中面では、右側通行の危険性について、科学的な説明を試みようとしている。その教育的な意図が、中面左下の四角の部分「危ない!痛い!死ぬ!」の文言とイメージによって台無しとなっている。中面左下の四角の部分「危ない!痛い!死ぬ!」は、今回は不要である。恐怖や不安をあおる言葉や写真、動画や演技を用いて、見る人に恐怖を与え委縮させるスケアードストレートの手法は、これまでの日本では、1つの「教育」として認識されてきた風潮もあるようだが、豪州や米国など交通先進国の中では既に、「中高生」等の精神的に成長著しい時期、つまり、自己アイデンティティの確立上の重要な時期には、そのような教育手法は逆効果であるとの認識に至った経緯もある。私も同感である。「危ない!痛い!死ぬ!」という文言を刷り物に記載する空間があるのなら、そのスペースを生かして、正しく運転をしているような爽やかなイメージキャラクターを掲載したり、或いは、愛知県内の自転車の安全運転を学べるような施設や機関、取り組みの情報を載せたりした方が、現場の教員の参考ともなり、「教育の波及と継続効果」があると感じる。</p>
<p>絵が衝撃的すぎると、違う部分に意識がいつてしまうのではないかと心配します。</p>	<p>クイズを使つての導入はありだと思います。~の特徴「クイズ」とアピールしないと、クイズだと気づかず読み飛ばしてしまいそうです。中面Bの「死ぬ!」はインパクトがありますが、避けられている表現であると思います。</p>
<p>・見通しの悪い交差点に一時停止標識を加えてはどうか。 ・まちがいの一つに一時不停止を加えてはどうか(事故形態では交差点の飛び出し事故が多いため)。 ・「傘をさす」「物を手やハンドルにさげる」「イヤホン」は全て安全運転義務違反なので、「ながらスマホ」を加えてまとめて一つとしてはどうか。</p>	
<p>「自転車のチェック」については、「鍵」、「正しく施錠できるか」を追加していただきたいと考えています。自分の自転車を大事にする(=盗まれない)ことが正しい自転車利用につながっています。鍵もかけない汚れた自転車利用者は乱暴な運転をする傾向があるように感じているからです。</p>	
<p>低学年の児童でも理解ができるように、わかりやすい表現を用いるほか、フリガナを付すなどの対応もお願いします。</p>	<p>現在の中面案では、右側通行に対する紙面割合を多く取っているが、車道通行の原則、車道通行時の左側通行等について触れられていない。 また、信号無視、一時不停止等の危険性についても、大きく触れて頂きたい。</p>
<p>1つくらいは難易度を高いものを設け、わからない子どもがわかった子どもにどこがまちがっているかを聞いて、納得できるものがあればいいかと思ひます。 ※一見、まちがいがないようにみえるが、実は…というようなもので、正誤の絵が同じなのに実は間違いというようなものを設ける。</p>	
<p>自転車利用時・歩行時両者の立場での出題を希望します。</p>	<p>自動車運転時、自転車利用時両者の立場での内容を希望します。自転車優先レーンの認識・考え方などについてあるとよい。</p>